

大きな実りの秋

校 長 細江 幸次

いよいよ寒くなってきました。朝、登校する子どもたちも上着が厚手のものになっていたり、手袋をしてくる子もいますが、そうかと思うとまだまだ薄着で頑張っている子もいます。新型コロナウイルス感染症はやや落ち着いた感じになってきていますが、一方でインフルエンザに対する予測は確証的なものがどうも見当たらないようです。薄着で頑張るのはいいのですが、くれぐれも無理だけはしないようにしたいものです。

11月20日(土)、「生活科・総合的な学習の時間発表会 兼お礼の会」を終えることができました。昨年度と同様に発表者、参観者共に入れ替えをしながら(理科室にてリモート参観有)しなごらの開催となりましたが、皆さんの保護者の皆様、地域指導者の皆様にご来校いただき、開催できたことをうれしく思います。



延期された運動会4週間後の開催となった今年度の発表会は、運動会の成果のみならず、4月からの地道な学習活動の成果を大切にしながら今回の発表会に反映させることができたと感じています。そのことが各学年ともマスクをつけているにもかかわらず、大きくて、明瞭で、誰にも聞き取れるスピードの声、決められた発表時間内で最大限のことが伝えられるように極力無駄な動きや言葉を省き、間違いをなくすための子どもたちの間で相互チェックを入念に行っていたことにも表れていました。おそらく、家に帰っても個々が自分のパートを繰り返し練習していたことでしょう。画像に頼らず、力強く大きく絵に表現して発表した方法は、背伸びをしないで今の学年に合った、そして必要な力をつける発表だと感じました。中には子どもらしい工夫について笑いが出てしまう場面もありました。こんなに短期間でここまでうまくなるものなのかと、ただただ感心するばかりの演奏がありました。たくさんの情報を上手に整理し、タブレットを使って見る側のわかりやすさを第一に考えた効果的な発表を進める高学年の姿もありました。

小学校の教育活動の歩みは一見ゆったりとしていて、確かな手応えとして実感しづらいことがよくあります。しかし、私たちはその中で「昨日できなかったことが今日できるようになる。今日できるようになったことが明日もっとうまくなる。」そんな瞬間を幾度となく目撃・体験をしています。「日常」と「行事」を両輪とした教育活動の意義はこんなところにもあります。

「努力の成果なんて目には見えない。でも、紙一重でも重なれば本の厚さになる。」 (君原健二)